YMCAキャンプ100年へ
つなげてきたものをよりよくするために

キャンプの教育力
星野 敏雄（社団法人 日本キャンプ協会 会長/明治大学 教授）

最近読んだ新井紀子さんの本「AI vs.教科書が説めない子どもたち」では、AIアシスタントを制作する過程で分かってきたことの一つとして、AIが苦手としている「言葉や物事の意味を理解すること」の重要性をあげる。さらに、日本の中高生が半分が英語の能力を「勉强していない」と答えている、という現状について大変危惧されています。

この本を読みながら、思い立たず、アメリカでキャンプや野外教育について学んでいた時に直接ご指導をいただいた、ドナルド・ハンマーマン教授が、「教室外で自然な体験を通じて行う野外教育の最大の利点は、言語や概念の本当の意味を子どもたちが体験を通じて直接理解することにある」と言っていたことを思い出しました。

大学で相手にしているゼミ生も、野菜や魚などの見分けがつかない学生が増えています。見分けがつかないということは、言葉や文字には「知っている」と、それが意味する本当の意味が「分かっていない」ということです。スマホやパソコンで調べて済ませることも多いため「知っているけど意味は分からない」ということが多いです。

キャンプに参加する子どもたちは、楽しそうな活動をしていて、最後の夜のキャンプファイヤーも多くの活動体験を通して、知らず知らずのうちに、「友情」「仲間」「努力」「感謝」の喜びを感じるここの「ヘコたれない」といった言葉の真の意味を実感理解しています。こうした体験を通じて身に付いた言葉の意味は、終生本人の中で受け継がれていきます。

キャンプには、教室や教科書だけでは伝えることができない事を現場で直接子どもたちに教えるという大きな強みがあります。100年目の今、YMCA青少年育成キャンプを継続と続いてこの前 Crash の努力を敬意を表しますとともに、この夏もまた、全国各地で展開されるYMCAキャンプの教育力に特に期待したいと思います。

（OPINION…意味は「意見・見解」など、「THE YMCA」では報道、関係団体・個人からの意見や提案を掲載します。）

YMCAキャンプ100インタビュー

1920年に明治神宮で最初に実施されたYMCAキャンプ。2020年には記念すべき100年を迎えます。

YMCAのキャンプはどんなキャンプで、何を大切にしてきたのでしょうか。また100年を経て、今の社会で、YMCAキャンプの今後の可能性はどんなことが考えられるのでしょうか。

今号では、キャンプについて学生時代から興味をもって活動していたユース世代のスタッフが、YMCAキャンプに長年携わってきたスタッフとレイバーソンにインタビューをして、さまざまなお話をしていたったり、インタビューの内容は2面〜3面をお楽しみください。

また4面では未来のYMCAキャンプを支えるユースリーダーに、夏への意気込みを教えてもらいました。
YMCAキャンプの魅力

YMCAキャンプの魅力は、自然の中で体験学習を行うことができることである。参加者は、キャンプでの生活を体験しながら、自身の成長と進歩を実感できる。

キャンプでの活動には、自然の中で行われる自然観察、水泳、陸上競技など多岐にわたり、参加者は多方面で体験を積むことができる。また、キャンプ生活を通じて、人との協力やコミュニケーションスキルの向上も目指される。

自然の中での活動は、参加者が新しいことを学び、自分自身を成長させる機会を提供する。参加者は、キャンプでの活動を通じて、新しい友人を結びつくこともできる。また、キャンプでの生活を通じて、参加者は自分自身を理解し、自己成長を遂げることができる。

 YMCAキャンプの魅力は、自然の中で体験学習を行うことができることである。参加者は、キャンプでの生活を体験しながら、自身の成長と進歩を実感できる。

キャンプでの活動には、自然の中で行われる自然観察、水泳、陸上競技など多岐にわたり、参加者は多方面で体験を積むことができる。また、キャンプ生活を通じて、人との協力やコミュニケーションスキルの向上も目指される。

自然の中での活動は、参加者が新しいことを学び、自分自身を成長させる機会を提供する。参加者は、キャンプでの活動を通じて、新しい友人を結びつくこともできる。また、キャンプでの生活を通じて、参加者は自分自身を理解し、自己成長を遂げることができる。

 YMCAキャンプの魅力は、自然の中で体験学習を行うことができることである。参加者は、キャンプでの生活を体験しながら、自身の成長と進歩を実感できる。
【広島YMCA】

方々へ恩の意を込めて挨拶

「原爆の子の像」建立60周年記念式典

毎年8月6日に、広島YMCAと広島女学院大学で「原爆の子の像」建立記念式典を行っています。同時期に開催されているイベント、フラワーセティバルの開催に合わせた企画を含む、市民の皆さんや観客たちが訪れる場となっています。

今年の式典は8月6日で、特に「広島平和民営会」のメンバー（以下、ユース平和委員）の呼び掛けによって広島市を訪れ、記念日に合わせた全国のYMCAで飾りを折じて広島に届けるという大きなチームメートとなりました。フラワーセティバリルの期間中、ユース平和委員は、中央大学YMCAメンバーを中心として数人が広島YMCA平和折り紙ブースを設け、全国のYMCAからは訪れてきた折り紙を千羽鶴に作る活動を行いました。

「原爆の子の像」は広島の原爆投下の瞬間を写した作品です。子供たちは被爆後の生活に支えられ、学びを積み重ねたものです。折り紙は被爆後の生活を支え、学びを積み重ねたものです。

その後、同じ病気でもたくさんの子供たちが亡くなる中、広島YMCA青年部員であった河本が「原爆によって亡くなっているすべての子供たちのためにみんなで慰霊をつくろう」と呼び掛け、「原爆の子の像」建立のための募金活動が始まりました。3年後、この活動は全国へと広がり、1986年8月8日に式典が行われました。式典には「これは彼女の叫びですこれは私たちの祈りです世界平和をささげること」の言葉が刻まれています。

今回、全国の都市YMCAの学生YMCAからは2万2千羽を贈る折り紙が、フラワーセティバリルの中で個別折られた折り紙、約8千羽を合わせて献納することができました。式典を終え、被爆地広島という場所で実にさまざまな活動が展開され、とても貴重な経験になった」という声がありました。

今後も、世界は戦争や紛争、あるいは貧困などによって苦しむ人々が大勢います。『折り紙』を折るという行為は子供全員が参加し、そういった活動を通じて一人でも多くの人が本当の平和について考え、行動していくことが大きな目標です。今後もこの活動を続けていく予定です。

ユース平和委員 石原 優衣（広島YMCA）